

中学生とともに考える那須塩原駅周辺のまちづくり



地域名 那須塩原市
パートナー名 那須塩原駅周辺整備室

18班

コミュニティデザイン 中野叶大 益子あみ
建築都市デザイン 藤原大輔 松田拓真
社会基盤デザイン 宮下怜 山口愛華

MUHAMMAD WAFIQ FIRDAUS BIN WAHID

1. 背景

- ・現在の那須塩原駅周辺は駐車場が多く、賑わいがあるとは言えない。
- ・新庁舎が黒磯から那須塩原駅の近くに移転することが知られておらず、現在は空き地のままのため有効な活用方法を見出す。
- ・このテーマが3年目ということもあり、調査・検討の段階から実践に向けて活動する。
- ・これからの那須塩原市の未来を背負うのは若者であり、昨年度の実績から中学生のまちづくりの意識は高い。



2. 目的

- ・東那須野中学校の生徒とともに、新庁舎建設予定地の活用方法を考えるなかで、市民参画によるまちづくりを推進する。
- ・新庁舎建設のPRIに繋がる活用案の企画・実践する。

3. 方法

1st.cycle

- ・地域パートナーの方と那須塩原駅周辺のまちあるきを行う。
- ・東那須野中学校を訪問し、校長先生と打ち合わせを行う。
- ・前年度に東那須野中学校で実施された建設予定地の活用案に関するアンケートの分析
- ・東那須野中学校3年生を対象に、「イベント開催に向けて中学生がどのような協力ができるか」という意見を募った。

2nd.cycle

- ・1st.cycle内での中学生の意見を踏まえ、青空図書館の企画を行う。
- ・11月3日の文化の日に「みんなの本棚」と名付けたイベントを開催
- ・地域で本を集めイベントに来た人が持ち帰るという本のリサイクル
⇒本の思い出が循環し、まちの活性化につながると考えた。
- ⇒身近なものをまちづくりに活かすきっかけづくり
- ・東那須野中学校に加え、大原間小学校、波立小学校、さらには地域団体の方々にも回収協力をいただいた。
- ⇒地元の公民館ではイスやテーブルなどの備品についても連携



イベント当日の様子(左、中央)と市民の声を聞くコーナーの様子(右)

3rd.cycle

- ・イベントを通した中学生のまちづくりへの意識変化をアンケート調査
⇒アンケート日:12月13日 回答数:239名
- ・イベントの報告会を東那須野中学校で実施
⇒校内放送にて、スライド資料を用いてイベントの様子を報告
- ・東那須野中学校で校内版青空図書館を展開
⇒イベントに来れなかった東那須野中学校の生徒、近隣小学校の校長先生や図書支援員さん、中学校説明会で訪れた近隣小学校の6年生の元にも本が渡る。



校内版青空図書館の様子(左)と報告会の様子(中央、右)

5. 分析

- ・前年度に行われたアンケートを引き継ぎ、青空図書館を開催
⇒中学生のアイデアがまちづくりに繋がるという経験ができた。
- ⇒中学生がまちづくりに参加するきっかけ作りをできたと言える。
- ・市民の声を聞くコーナーでは、那須塩原市の良いところとして「自然が豊か、新幹線の停車駅などからアクセスの良さ」が挙げられた。
- また、新庁舎建設後にどんなかわり方が出来るかという問いには「草刈り、ごみ拾い、イベント参加」などの意見があった。
- ⇒市民の声をもとに、ジョギングをしながらごみ拾いをするプロギングのように草刈りなどもイベント化できると良い。
- ・イベント告知ポスターや当日の来場者が約150人、同日開催の別イベントにおけるビラ配りなどから新庁舎のPRIに貢献できたと言える。

4. 結果

【那須塩原市にて】

- ・敷地の広さや駅からの位置を体感し、イベントの方向性を見つける。

【アンケート結果】

- ・青空図書館、フリーマーケット、マルシェ、公園などの案が集まる。
- ⇒予算や空間の制限などから青空図書館の開催を決定
- ・古本回収、おすすめ本の紹介、宣伝ポスター・チラシ作成、当日の読み聞かせなどで中学生が協力できるのではないかという意見が集まる。

【イベント準備】

- ・東那須野中学校に向け、イベント告知のビデオレター作成
- ・那須塩原市内にて古本回収ボックス・回収告知ポスターの設置
⇒合計579冊の本が集まる。

【青空図書館の内容】

- ・東那須野中学校コーナー（東那須野中学校内で集まった本のコーナー、中学生によるおすすめ本の紹介文掲示、文化祭でのビブリオバトル放送）
- ・市民の声を聞くコーナー
- ・読書コーナー（机と椅子を設けた場所、寝転びスペース）

【イベントの成果】

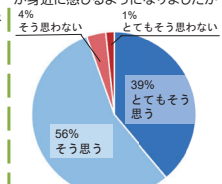
- ・東那須野中学校の生徒を含む約150人が来場
- ・那須塩原市市長が来場
- ・約200冊が来場者の手元に渡る。
- ⇒残りの本は3rd.cycle内で再活用
- ・本と人との新しい出会いを作り出し、まちの活性化に貢献



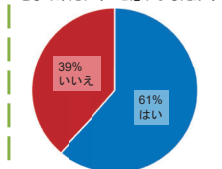
【アンケート結果】

- ・来場した中学生からは「面白い本を見つけることができた」「知らない本がありわくわくした」などの意見が集まった。
- ・来場できなかった中学生からは、友達からの感想や本によるまちづくりへの興味から行って見たかったという意見があった。
- ・「みんなの本棚」についてどう感じましたか？という問いに関しては、「楽しそう・面白そう」という意見が最も多く、その他には「地域貢献や地域の活性化に役立っている」といった意見が集まった。
- ・約9割の生徒が本を使ったまちづくりを身近に感じており、イベントの主体となって参加したい人は約6割と過半数を超えた。

報告会を通して本を使ったまちづくりが身近に感じるようになりましたか？



今後、自分達が中心となったイベントをしてみたい！と思いませんか？



6. 提案



- ・中学生が主体となるまちづくりを段階的に可能にする。
- ⇒「中学生と大学生」「中学生と地域」などのように協働しながら、まちづくりを行う機会をつくることで、中学生がまちづくりの主体・運営としてのスキルを身に付ける。



- ・建設前のイベントのみならず、建設後も継続的な市民参画の場として活用することで、新庁舎に愛着を持ってもらう。
- ⇒新庁舎が那須塩原駅周辺のまちづくりの中核となる取り組みを行う。
- ⇒中学生を主体としたまちづくりや地域団体の取り組みなど、市民の活動をサポート・促進できる役割を担い、市民の声を反映したまちづくりやイベントの提案・実施を可能とする新庁舎の姿が望ましい。